

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	運営の実践については、開設当時から同法人の理念をもとに介護の実践にあたってきたが、まだ職員個々がグループホームとしての勉強不足が見られ一貫性をもった介護が出来ていない部分がある。	職員会議等でグループホームの概要や事業計画書の意義や意味を理解し同じ目標を持ち利用者様が安心して生活が送れるように支援する。	法人の施設長、相談員に協力をお願いし職員会議や研修会で当施設の現状や問題点を話し合い、独自の理念作成に努める。	6ヶ月
2	33	重度化や終末期に向けた方針については、入所時の契約の中で説明はしているが、実際に重度化した利用者さんについては今後の方針について話し合う時期を見極めることができず、家族の方に不安や迷惑をかけてしまった。	重度化や終末期については、医師や家族と施設で段階ごとに話し合いを行う。	重度化や終末期の方針を明確にし、現在入所されている家族に説明を行う。また今後入所される方には契約時に説明を行う。	12ヶ月
3	4	運営推進委員会では行政や民生委員に参加してもらっているが、当施設の現状や運営方針を地域の方に理解してもらうためには老人クラブや地区代表者の方の委員選出を検討中である。	地区役員、青年団、老人会の交流を計画する。	青年団主催の地区の行事への参加、老人会や地域の役員の方を施設の行事に招待することで施設の現状を知っていただく。また行政からも情報発信をお願いしていく。	6ヶ月
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。